

Public relations magazine SAISEI Oh! MIYA

わたしたち常陸大宮済生会病院と
皆さんをつなぐ広報誌

さいせい
済生

おおみや



特集 開院10周年記念号

- 開院10周年にあたって
- 済生会について・病院開設までのあゆみ
- こんにちは! 常陸大宮済生会病院です「薬剤科」ほか

2016
第3号
夏号



社会福祉法人 済生会支部 茨城県済生会
常陸大宮済生会病院



開院10周年にあたって

10th Anniversary Hitachi Omiya Saiseikai Hospital



病院長 河野 幹彦



常陸大宮済生会病院は2006年（平成18年）7月3日に診療を開始し、満10年を迎えました。当院設立から本日に至るまでご尽力、ご支援いただきました多くの皆様に深く感謝申し上げます。

開院10周年記念式典を9月3日（土）に常陸大宮市文化センターロゼホールで開催いたします。記念講演として現在アフリカザンビアで医療活動を熱心に行われておられます山元香代子先生にお願いしております。山元先生は常陸大宮とは比べることができないほどの過酷な環境で、地域の医療・衛生・福祉の改善とそれらに携わる方の教育に力を注がれております。そこでの苦しみ、喜び、楽しさなどを拝聴できるものと思います。また、午後からは、地域の皆様に当院をより知っていただきたく、「常陸大宮済生会病院まつり」を病院敷地内で開催いたし

ます。病院スタッフが工夫をこらして色々なイベントを企画していますので、ご来場いただければ幸いです。

常陸大宮市のまちづくりに対するアンケート調査では医療サービスの充実が必要とされる項目の第1位となっております。伊東紘一前院長の多大なご尽力により、当地域に必要な病院としての基礎が築かれました。開設10年の節目を迎え、「患者・家族・地域に優しい病院、愛される病院、信頼される病院」、「地域造りに貢献する病院」、「職員が誇りに思える病院」を合言葉に、当院の使命を全うしていくために、これからも職員一同が心を合わせて地域の皆様のご期待にお応えする所存であります。今後ともご支援の程宜しくお願い申し上げます。



副院長 小島 正幸



2006年7月3日に開院となりましたが、私と常陸大宮済生会との出会いは、その数年前2004年からになります。2004年10月8日に初代院長に当時自治医科大学附属病院副院長であった伊東紘一先生が決定しました。私は、当時自治医科大学消化器外科に所属しており、永井秀雄消化器外科教授（現茨城

県立中央病院名誉院長）から茨城県に新しくできる病院の外科をやってみないかとの打診がありました。いずれ茨城に帰って外科を目指す若手医師と一緒に仕事をしたいと考えていたので、常陸大宮済生会病院で外科をやっていこうと思いました。2004年10月25日に第一回検討会が自治医科大学の図書館会議室で

行われました。その後も医療機器や電子カルテ導入などについて会議をおこなっておりました。

2005年7月からは、毎月一回常陸大宮市内の病院開設準備室で、病院運営会議が始まりました。自治医科大学から伊東先生といっしょに私の自家用車で、こちらに来ましたが車中でも伊東先生といろいろ話をしていました。伊東先生との話は多岐にわたり非常に勉強になりました。建設現場にも何度か訪れました。建物が徐々にできあがってくるのをみると新しい病院でやるんだという実感がわいてきました。2006年4月に開院準備室に赴任し7月3日の開院に向けて準備を加速させました。

2006年7月3日の月曜日の最初の当直は、私が担当しました。4日朝5時過ぎに救急要請があり、腹痛の患者さんが搬送されました。単径ヘルニア陥頓の方で、4日午後当院第一例の手術を施行しました。手術が必要な患者さんも始めは水戸の病院を希望される方が多いのではと思っていましたが、当院での手術

を希望される方が多く、期待されているという実感がありました。最初の週は、50人以下だった外来患者さんもよく週には、60人以上となりました。入院患者さんも初日に3名の入院がありましたが、徐々に増えて7月末には40名近くになりました。

当初からいる常勤医は私一人になってしまいました。ここで働いていた仲間は、自治医科大学、茨城県立中央病院などで働いています。ここで働いていたことを誇りに思えるよう常陸大宮済生会病院を盛り上げていきたいと思えます。



▲ 建設中の当院（平成17年9月7日撮影）



▲ 故名誉総裁
高松宮宣仁親王妃
喜久子殿下 御書

初代総裁・伏見宮貞愛親王殿下（ふしみのみやさだなるしんのう）は創立当時済生会の事業についてのお心を「撫子（なでしこ）の歌」としてお詠みになりました。それにちなんで、いつの世にもその趣旨を忘れないようにと、撫子の花に露をあしらったものが、大正元年から済生会の紋章となっています。

露にふす 末野の小草
いかにぞと
あさ夕かかる わがこころかな

なでしこの紋章の由来

済生会とは



明治44年2月11日、明治天皇は「医療を受けることが出来なくて困っている人達に、施薬救済の途を講ずるよう」という趣旨の「済生勅語」と、その基金として御手元金150万円を当時の内閣総理大臣桂太郎に下賜され、総裁伏見宮貞愛（さだなる）親王、会長桂太郎とし、済生会を創立。以来、全国的規模で医療の推進と社会福祉事業に取り組み、戦後に公的医療機関の指定を受け組織を「社会福祉法人」に改め現在に至っています。

また「困った人に医療の手をさしのべる」という済生会の創立の原点につながる事業として、経済的にお困りの方のために無料または低額な料金で診療を行う「無料低額診療」を行っています。

明治天皇「済生勅語」原文

勅語

朕惟フニ世局ノ大勢ニ随ヒ國運ノ伸張ヲ要スルコト方ニ急ニシテ經濟ノ狀況漸ニ革マリ人心動モスレハ其ノ歸向ヲ謬ラムトス政ヲ為ス者宜ク深ク此ニ鑒ミ倍々憂勤シテ業ヲ勸メ教ヲ敦クシ以テ健全ノ發達ヲ遂ケシムヘシ若夫レ無告ノ窮民ニシテ醫藥給セス天壽ヲ終フルコト能ハサルハ朕力最軫念シテ措カサル所ナリ乃チ施薬救済以テ濟生ノ道ヲ弘メムトス茲ニ内帑ノ金ヲ出タシ其ノ資ニ充テシム卿克ク朕力意ヲ體シ宜キニ随ヒ之ヲ措置シ永ク衆庶ヲシテ頼ル所アラシムムコトヲ期セヨ

大意

私が思うには、世界の大勢に応じて国運の発展を急ぐのはよいが、我が国の経済の状況は大きく変化し、そのため、国民の中には方向をあやまるものもある。

政治にあずかるものは人心の動揺を十分考慮して対策を講じ、国民生活の健全な発達を遂げさせるべきであろう。

また、もし国民の中に、生活に困窮して医療を求められないものがない、天寿を全うできないものがあるとすれば、それは私が最も心を痛めるところである。これらの人たちに薬を与え、医療を施して生命を救う——済生の道を広めたいと思う。

その資金として、ここに手元金を提供するが、総理大臣は私の意をくみとって措置し、永くこれを国民が活用できるように希望するのである。

常陸大宮済生会病院

創立十周年にあたって



名誉院長 伊東 紘一

平成28年7月3日に常陸大宮済生会病院が創立十周年を迎えたことは、その創立に関わった者として、真に喜ばしく、めでたいことであると思います。本院の創立には、実に多くの人々が関与しておりました。茨城県で一番医療過疎の地であり、医療に恵まれない多くの人達は、市町村合併に際して、合併債を利用して病院を作ることを決めたのでした。常陸大宮市内には限界集落、準限界集落が幾つもあり、非課税世帯は全世帯数の25%に及びました。無料低額診療事業を行う済生会の病院であった事は幸いなことでありました。常陸大宮済生会病院の創立は、茨城県知事、各市町村長、各議会の議員さん達、行政の担当者達、済生会本部の理事長、理事そして建設委員会委員の済生会病院院長さん達、自治医科大学の関係者や卒業生医師達等々数えきれない数の人達によって実現したプロジェクトでした。

私は、本院の設立準備段階の2年間と開院してから病院長としての8年間、合計10年間を常陸大宮で過ごしました。準備段階では毎月常陸大宮市内にある準備室に、現看護部長鈴木典子さん、副院長小島正幸先生、現在は岩手県立大東病院の院長になっておられる杉山照幸先生（当時診療部長）と4人が参集して事務の人達と組織作りに取り組んだも

のでした。ゼロから出発する病院でしたから、医師はもちろんですが、看護師が集まるかが一番の心配でした。何とかスタッフが集まり、開院の日に医師、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、事務員へ辞令を手渡し、職員に対して、「未完成の人達が、今日この場所に集まったのだ。皆で助け合い、励まし合い、協力し、切磋琢磨して、一層の高みに登るのだ。ここに集まった一人一人が一つの日本一を目指せば、百、二百の日本一が我々のものになるのである」と述べました。私がいる間にも、幾つもの日本一がありました。そして、十周年を迎えた現在、幾つの日本一が出来ているのでしょうか。楽しみであります。

私は、院長として8年間を務め、河野幹彦先生という後継を得て、東日本大震災の^{つなみ}海嘯により壊滅した陸前高田の被災者の力になるために、常陸大宮済生会病院を去りましたが、常陸大宮での仲間達、患者たちの事は片時も忘れることはありません。陸前高田では市民の10%（1800人を超える人々）が^{つなみ}海嘯に飲み込まれました。生き残った人たちもつらい日々を過ごしています。非課税世帯は30%を数えます。被災証明により医療費免除されるものは14%です。常陸大宮は医療に恵まれない人達が大勢いましたが、陸前高田はもっともっと過酷な状態にあります。

常陸大宮の医療がまだまだ未完成であることは十分に知っております。これからも常陸大宮済生会病院のスタッフが、相携えて、より高い「高みを目指して歩み続ける」ことを念願しています。



◀ 忘己利他：天台宗開祖 最澄の言葉
「己を忘れて他を利する」
自分のことを忘れ他人のために尽くすの意。

開院 10 周年を振り返って

看護部 外来 齋藤 絵美

ちょうど 10 年前、私は常陸大宮済生会病院開院と共に当院へ就職しました。当時、私は第 3 子を出産後約 1 年。長男は小学校入学、長女は保育園入園と子育て真っ最中でした。

新しい病院での新しい職場は、私自身初めて経験することが多く、毎日が必死の想いでした。そんな中でも、師長さんの家庭への配慮があったことや、同じように子育て中のスタッフ同士で支えあうことで、10 年間勤めてくることができました。

私は開院時から外来勤務なので、患者さんやご家族の方とじっくりかかわる機会は少ないのですが、通院している方たちから「元気になったよ。」「ありがとう。」などの言葉を頂いたり、「よう、元気かい？」などと気軽に声をかけて頂き、お話することをうれしく感じています。外来勤務の中で一つ一つの出会いを大切にしたいと、強く感じるようになりました。

今思えばあっという間の 10 年間でした。小さかった子供たちも大きくなりました。赤ちゃんだった末っ子はもう 5 年生です。

開院 10 周年。当院の役割として、地域の方たちの期待に応えきれていない部分もあるように感じています。また、その中での私自身の課題もまだまだたくさんあります。10 周年を機に、これまでを振り返り、地域の方たちに頼りされる病院、そしてやさしい看護を目指して、病院スタッフ一丸となり頑張っていきたいと思えます。



みんな大きくなりました！

開院 10 周年記念イベント

平成 28 年 9 月 3 日 日



常陸大宮済生会病院

開院 10 周年記念式典

参加無料 申込不要 9:30 ~ 11:30 (受付開始 9:00)

常陸大宮市文化センター ロゼホール (大ホール)

記念講演

演題 **ザンビアでの
辺地診療活動**

講師 NPO 法人 ザンビアの周辺医療を支援する会
副理事長 山元 香代子 先生



病院まつり

会場 院内・エントランス周辺 12:00 ~ 15:00

体験

内視鏡操作体験
調剤体験
経口補水液づくり
糖尿食試食
など



展示・相談

健康相談
お薬相談
放射線画像展示
消防車展示



健康測定

骨密度測定
体脂肪測定
血糖測定
ストレスチェック



お楽しみ

スーパーボールすくい
ヨーヨーつり
輪投げ
ポップコーン・綿あめ



出店・飲食

焼きそば・お好み焼き
地元物産品等販売
パン・クッキー・ラスク



特設ステージにて スペシャルイベント

常陸大宮済生会病院 回顧録

開設までのあゆみ

当院開設の経緯をあらためて振り返ってまいります



当院の位置する茨城県の県北西部地域は山間地域であり、少子高齢化の進みが著しい人口減少地域です。医療面において平成8年時点では中核的な病院が存在しないことから、水戸保健医療圏に含まれる常陸太田・大宮サブ保健医療圏となっていました。

人口10万人当たりの医師数も県平均を大きく下回る65・9人と少なく、無医地区も13地区あり医療過疎の地域となっていました。入院及び外来患者の受療動向も多くを水戸市等の医療機関に依存しており、特に休日や夜間における救急医療体制の充実整備が地域住民の大きな要望でした。



において採択されることになり、茨城県においても県北西部地域における医療供給体制整備の検討が本格的に行われるようになったのです。

その結果、県北西部地域中核病院の建設計画が、平成15年9月に開催された茨城県済生会臨時理事会に諮られることになり、公設民営方式による済生会の病院運営が承認されることになりました。



当時、国および地方においては今までに経験した事のない長期景気低迷、また急激に進む少子高齢化に対応するため、行財政改革が積極的に進められており、同盟市町村においても合併の検討がなされていました。旧大宮町、山方町、緒川村、美和村、御前山村の5町村の合併協議が県内で一番進展しており、合併に対する住民要望アンケートにおいては「医療の充実・総合病院の誘致」の要望が大多数を占めることになり、病院開設が緊急の課題として浮上していました。

このようにして、県北西部地域住民の大きな念願である中核病院の建設が、郡を跨ぎ県内で一番数の多い町村合併における、合併後のまちづくりの柱となる事業として策定され、県内5番目、全国では80番目の済生会病院の建設整備が開始されることとなったのです。

【参考】病院年報 2006 vol.1

開設の要望書が平成10年9月、当院の開院が平成18年7月ですので、約8年の歳月と地域住民の皆さま、たくさんの方々のご尽力によって当院は開設されたのです。



こんにちは!

常陸大宮済生会病院です

こんにちは!



第2回 わたしたち! 薬剤科です!

薬剤師の仕事というと、一般的には調剤(医師の処方に基づいて、お薬を飲み合わせなどに注意しつつ取り揃え、飲み方や副作用などの注意点を患者さんに説明した上でお渡しすること)がメインだという印象でしょうか?



確かに、病院においても調剤は重要な仕事ですが、私たち病院で働く薬剤師は調剤だけでなく、病院内のお薬にまつわる業務全般に関わっています。例えば、入院中食事だけでは十分な栄養の取れない患者さんは栄養剤(食品だけでなくお薬もあります)や点滴で栄養をとりますが、栄養や水分が十分に足りているか・多すぎないかなど、栄養士・医師と協力し確認します。また、感染症の予防では消毒薬を正しく使用することが大切ですが、消毒薬やその使い方もいろいろあります。消毒したいばい菌の種類や消毒したいもの(器具やテーブルなど)によって選ぶ必要があるため、消毒薬が正しく使われるようにアドバイスもします。このように病院の薬剤師は、患者さんの見えないところで薬が病院内で安全に正しく使われるようチェックしたり、いろいろな職種の職員にアドバイスします。

また、薬剤師は病棟でも入院患者さんが受けるお薬での治療が安全に行われるよう働いています。患者さんが入院された時に、入院前にどのようなお薬を飲んで

いたか量や飲み方についても確認し、入院後も継続して使用すべきかを、同じような効き目の薬がダブっていないか・患者さんの体の状態にあっているかを確認し、医師に提案します。入院中は処方されたお薬が安全に使用されるよう、薬剤師の視点から確認しますし、患者さんがきちんとお薬を飲めているか、副作用が出ていないかのチェックも行います。

このように、薬剤師は「薬あるところに薬剤師あり」をモットーに、お薬による治療が安全・正確に行われきちんと効果を発揮するよう、患者さんをはじめ、色々な職種のスタッフと協力し医療に貢献していきます。

(薬剤科 副科長 高橋 昌也)

薬あるところに薬剤師あり!です!



出前健康講座

依頼募集中

地域の皆さまの健康づくりを推進するため、常陸大宮済生会病院の職員が皆さまのところへお伺いし、健康に関する講話や健康相談を行います。

■ 日時：応相談

■ 会場：常陸大宮市内(ご用意いただいた会場へお伺いします)

■ 費用：無料

■ 開催希望の1ヶ月前までにお申し込み下さい

お問い合わせ

0295-52-5151 総務課までお気軽にお問い合わせください。



クリーン作戦



クリーン作戦実施中！
きれいな環境で、質の高い医療を！

草刈奉仕作業



職員有志により敷地内の草刈りが行われました。
暑い中お疲れさまでした。キレイになりました！

那珂医師会永年勤続者表彰



那珂医師会より検査科の廣木参事、医療連携・相談室の
小野瀬室長の2人が勤続10年で表彰されました。

市民健康教室



第6回市民健康教室「甲状腺のお話」
立ち見がでしてしまうほどの大盛況でした。

出前健康講座



出前健康講座も大変好評頂いております。
お気軽にお問い合わせください。

Oh!miya
topics
とびっくす

当院の様々な出来事をお届けします



社会福祉法人 済生会支部 茨城県済生会

常陸大宮済生会病院

〒319-2256 茨城県 常陸大宮市 田子内町 3 0 3 3 番 3

☎ 0295-52-5151 FAX 0295-52-5725

診療科目

内科 / 循環器内科 / 呼吸器内科 / 消化器内科
内分泌・代謝内科 (糖尿病・脂質異常症) / 小児科 / 外科
消化器外科 / 整形外科 / 脳神経外科 / 泌尿器科
肛門外科 / 形成外科 / 皮膚科 / 放射線科

外来受付時間

午前 **8:30 ~ 11:00** (祝日を除く) 月~金土

※ 診療科により受付時間・曜日が異なる場合がありますのでお問い合わせください。

休診日

土曜日 (第2・4を除く)、日曜日、祝日

予約の変更は

午後 **3:00 ~ 5:00** 月~金

☎ 0295-52-5151 予約担当



<http://ho-saisei.jp>

お知らせ・休診情報
最新情報はこちらで

